

本勉君には関東在住の時に出席してもらい、大いに盛り上がったものです。

2003年の京都での18期同窓会でお世話になった皆様にご無沙汰しております。いつもお誘いいただき関西支部の会合に何とか都合をつけて出席できればと思っております。

また、関東支部の総会や18期同窓会の開催時には、関西支部の皆様のご出席を切に願っております。

関西支部のますますのご発展と皆様のご健勝をお祈り申し上げます。



陶芸に魅せられて

(本部同窓会副会長)
19期 小川 陽子

陶芸……それ迄は鑑賞する事があっても、自分で作るとは思っていませんでした。12年程前に自宅近くでランチをしていたビルの中に陶芸教室があり、何気なく見学に行ったのがきっかけです。

その時、特に先生が作陶した一つの壺が目に入り、感激で体中衝撃が走りました。それで思わず先生に「何も知らない私でも作れますか」と聞いた処、簡単に「出来ますよ」と言われ、その一言で直ぐ入会の手続きを取りました。

教室に行き出した当初は、中々すぐに作るという訳には行きませんでした。

まず土を「こねる」ことから(割れないよう空気を抜く為)始まりましたが、結構体力を必要とし、その上菊の花のように(菊ねりと言います)こねなければなりません。筋肉痛になるほど四苦八苦しました。又、その時の私の服装は、何も考えずにスカートにハイヒール……先生は唾然として「そんな姿では出来ませんよ」と一喝されました。それもそうですよね。今でも語り草になっています。

回を重ねてようやく「菊ねり」も出来る様になり、いよいよ作陶に入りましたが、思うように「土」が言う事を聞いてくれません。相手は「土」なのに毎回格闘です。

始めてから3ヶ月目でようやく作陶にも慣れた頃、県民陶芸展があり怖いもの知らずで、それに出品しました。それが何と奨励賞を受賞してしまったのです。長年していても取れないのに短期間で賞を取り、先生もビックリ、本人が一番驚きました。

その作品は今でも手元に置いてありますが、本当に幼稚な作品でよく受賞できたなあと思っています。その頃は陶芸を趣味にしている人は少なく、出品数が少なかったのかも知れません。このことが自信となり陶芸に益々

はまっていきました。

それから12年余続いています。何事も楽しみながらするのは持続しますね。今は無心になる時間を持てる幸せを感じています。

色々作陶しましたが好んで作るのは壺・花器・オブジェです。焼きあがった器が釜から出てくる瞬間のドキドキ感は格別で、二度と同じ物が作れないから本当に何年経っても奥深いものがあります。

陶芸もそうですが作品を作るということは、最初は「ものまね」でよいとよく言われますが、それはその作品を良く観察して自分の物にし、それを継続することによって感性が養われていきます。その点、歴史と文化に育まれた金沢は、色々な美術展、展覧会、個展など、身近な発表に恵まれ、さすが美術王国と言われるのに相応しい街だと思います。

2008年の二水高校60周年記念事業として白山市民工房「うるわし」で二水美術展が開催され、その時も前関西支部長の中川さんにお誘いを戴き、拙い作品乍ら出品しました。このような形で皆様に見て戴いて陶芸を続けていて本当に良かったと思っています。

この美術展も大盛況で、「今度は何時ですか」との問い合わせが多数ありました。そこで、来年3月に金沢21世紀美術館で二水美術展を開催する予定ですので、多数の方々の出品を是非お願い致します。

陶芸を通して色々な方に出会い、また同窓会の役員に就任してからも素晴らしい出会いがありました。この人達との繋がりは、私の貴重な財産となっています。人生の中で一つでも熱中出来る物があるという事は幸せです。



自転車王国おおさか

27期 今井 一秀

根室・小樽間や東京・名古屋・金沢間などペダルをこぎ続けた学生時代から30年余。往時の健脚はすっかり衰え、今では通勤で駅の階段を登るのさえしんどくなりました。そこで、体力回復とばかりに、大阪赴任をきっかけに再びサイクリングを始めました。

新大阪に近い宮原の単身者マンションを起点に週1回、半日サイクリングを楽しんでいます。1年目は、キタもミナミも分からず本を頼りにモデルコースを走るのが精一杯。それでも2年目の昨春からは、前夜に大きな地図を広げて気ままに目的地を決められるようになりました。振り返ってみると、最も辛かったのは茨木市千提寺の隠れキリシタンの里でした。半端ではない急傾斜の

道を登りつめると、密かに信仰を守り続けた小集落によ
うやくたどり着きます。ここは、かつて高山右近の領地
だったところで、右近は後に加賀藩前田家の客将になり
ます。登りが1時間半というハードさながら、風を切っ
て下界へ下りるのは、わずかに15分。ダウンヒルの爽
快さが、たまりません。

少しずつサイクリスト魂に火がつき始めて、春は天王
山ハイキングを兼ねて大山崎、夏に県勢応援のため甲子
園、秋の紅葉狩りに箕面公園、新春は石清水八幡宮など
と、遠出にも挑むようになりました。関西には、四季を
通して魅力的なスポットがふんだんにあることを痛感し
ました。

思えば、大阪は自転車の街。裾をひるがえして自転車
出勤する新地の女性たちもいれば、傘立てスタンドを付
けたママチャリで前後の荷台を満載にした買い物婦りの
オバチャンにも出会います。日本一低い山といわれる海
抜4・5メートルの天保山があるくらいに平坦な地形も
あって、市民の足として定着しているのでしょうか。

自転車メーカーの多い堺市を訪ね、刀や鉄砲を作った
鍛冶職人の技が現代に息づいていると聞きました。大阪
は、100人当たりの普及率が約75台と全国2位で、
利用実態も産業面からも、まさに「自転車王国」と言え
ましょう。

そんな自転車王国にあって、私のお気に入りのコース
を紹介いたします。淀川の河川敷を上流へ走り、大阪市
旭区の太子橋地区の河川公園を過ぎた所で堤防を越えま
す。そして、庭窪の浄水場、パナソニック電工本社の裏
手、西三荘を経て鶴見緑地で一服。西に進んで城北川沿
いを南下、寝屋川にぶつかったら西進して大阪城をめざ

し、さらに大川沿いのサイクリングロードを北上して毛
馬の閘門に出るコース。比較的短いコースですが、水都
らしい自然と人の営みを両方味わえます。

私がこのルートに入るとき、必ず渡るのが、淀川にか
かる「赤川木橋」です。最近では、木製の橋自体が珍し
くなっていて貴重です。赤川木橋は、人と自転車のみが
通行可で、ミシミシと橋板が鳴るスリリングさとレトロ
な風情がたまりません。この木橋こそが、今のところナ
ンバーワンの素敵な場所です。

サイクリングの魅力は、こうした取っておきの素敵な
場所に出会えるだけではありません。知らず知らずに地
名も覚えます。新聞を開いて地域面を読んでも、『あ
そこのことだ』と実感や親近感がわいてくるのです。

尻の痛みが消えると、今週末はどこに行こうかと、ま
た地図に見入っています。



まほろばハイキング

◇布引の滝ウオーク

- 2009年9月12日(土) 10:30 ~ ● 参加者4人
- 新神戸駅~布引の滝~みはらし展望台~布引貯水池~ 市ヶ
原ハーブ園~新神戸ロープウェー



布引の滝



ハイキングコース



みはらし展望台

新神戸駅1階の車寄せを左に折れるとすぐにハイキン
グコースになる。右側の急な階段を上って行くと、布引
の滝が見えてくる、落差は約43mもあるという。さらに
10分も登ると「みはらし展望台」、ここはトイレがあつて
休憩もでき、眼下には神戸の街が広がる。上りきった布
引貯水池は水を満々に湛えていた。ほどなく、市ヶ原の
茶屋に到着、昼食と休憩で1時間過ぎすうちに雨が降り
出した。急いでハーブ園に向かい、ロープウェーを利用
して北野まで下りてきた。雨は一段と激しくなり、オリ
エンタルホテル1階の喫茶店に滑り込んだ。



布引貯水池



市ヶ原茶店

トピックス



折口信夫の通学路を歩く

21期 島 寛

「美しき暁や…」で始まる金沢二水高校の校歌を作詞した折口信夫が、大阪で生まれたことを最近知った。浪速区の鷗町公園内には、昭和35年に市制70周年記念として「折口信夫生誕の地」の石碑が建立され、昭和58年には『十日戎』文学碑も建てられた。その折口が青年期に学んだのは、上町台地にあった旧制の天王寺中学（現在の大阪府立天王寺高等学校）である。そこへ毎日通ったであろうと思われる道を歩いてみた。

折口の生家があったという木津村市場筋は鷗町公園の少し南を東西に通っていて、東に行けば上町台地に突き当たる。昭和20年の大阪大空襲で焼かれ、街の様子はすっかり変わってしまっているが、道の位置は変わっていない。

木津卸売市場を左に見て、南海電車の高架下をくぐる。難波と堺の間が明治20年に開通している。廣田神社の前を通り、日本橋の電気街を抜けると松屋町筋に当たる。そこは下寺町、地名が示すように豊臣秀吉によって集められた寺が並んでいる。寺と寺の間の路地に入っていくと、夕陽丘に上がる天王寺七坂と呼ばれる石畳の坂道を横に結ぶ道が通っている。

夕陽丘は上町台地のなかでも特に緑が多く、寺と神社が密集しているところだ。折口がどの坂を上ったかは定かではないが、清水坂を上るのが一番自然だと思う。右側に清水寺が建ち、左側の星光学院が建つところは江戸時代に大阪随一と言われた料亭「浮瀬」の跡地、多くの文人墨客が集まって来たという。

一つ北の愛染坂を上ると勝鬘院・愛染堂が建つ、ここの“愛染まつり”は大阪三大夏祭りのひとつ。隣には大江神社があり、その境内に「夕日岡」の碑と松尾芭蕉の有名な句碑が建っている。『あかあかと日はつれなくも秋の風』この句碑は四面に短冊を張り合わせた珍しい形をしており、四吟塚と呼ばれ1817年（文化14）に建てられた。



鷗町公園内にある生誕地の石碑

国文学者・歌人・民俗学者として知られる折口信夫（おりくち・しのぶ）は、明治20年（1887年）2月医師折口秀太郎の四男として、当時の西成郡木津村市場筋に生まれました。国学院大学の教授となり、柳田國男の影響を受けつつ、自分でつかんだ民俗学を国文学に取り入れ新境地を開きました。釈道空は歌人としての筆名です。

『大阪市顕彰史跡・顕彰碑』より抜粋

谷町筋に出たところが六万休町、珍しい町の名は、聖徳太子が六万休の地蔵を刻んで、この地一帯へ埋めたという言い伝えによる。この町の吉祥寺は赤穂浅野家の菩提寺で赤穂義士の墓が今も残る。

ここから街路は碁盤の目状になっているので、折口がどこを通ったか想像はできないが、学校は目と鼻の先。家から40分～50分の道のりである。天王寺中学の跡地には、現在、大阪国際交流センターが建っていてホテルを併設している。その敷地の一角に「大阪府立天王寺高等学校発祥の地」の金属製プレートが設置されている。

折口信夫は後年、天王寺中学から校歌の作詞を再三依頼されたが、何故かたくなに拒み続けたと伝えられている。



清水坂



愛染坂



天王寺高校プレート



吉祥寺



芭蕉句碑



愛染堂

関西同窓会第10回総会・懇親会

- 2009年4月19日(日) 16:00～18:30
- ホテルグランヴィア大阪 20 F「孔雀の間」 大阪市北区J Rル ● 46人出席



加藤学校長



中川会長



総会受付



10周年記念
クリアファイル



ビンゴゲーム



会場風景

来賓の加藤茂芳二水高校校長より、クラブ活動成績と大学合格者数の現状が紹介された。そして、平成20年度の会計報告が承認された。役員改選が行われ、新会長に林茂(17期)を選出、その他の新役員も決まった。懇親会は金沢の地名にちなんだテーブルに別れ、ビンゴゲームなどで盛り上がった。

ビアパーティー2009 in 宝塚

パーティーは森さんの司会で始まり、林会長の挨拶、本部副会長小川さんの挨拶と続き、乾杯の音頭は永島さん。無量井さんオリジナルの短冊に願いを書き込んだり、「二水検定」クイズに挑戦したり、あまりお金をかけないアイデアが続出。会場は大いに盛り上がり、予定時間を1時間半もオーバーしてしまった。

- 2009年7月18日(土) 14:00～17:30
- がんこ宝塚苑 兵庫県宝塚市栄町
- 36人出席



開会挨拶 林さん(17期)



来賓挨拶 小川さん(19期)



乾杯音頭 永島さん(4期)



短冊 無量井さん(17期)



二水検定 河本さん(18期)



ハイキング 広崎さん(17期)



中締め 中村さん(26期)



ビデオ撮影 吉倉さん(4期)



ビアパーティー・歓談風景



ビアパーティー・歓談風景



願いを書いた短冊

まほろばハイキング

◇伏見稲荷ウオーク

- 2010年2月14日(日) 11:00～ ● 参加者5人
- 京阪・深草駅～石峰寺～伏見稲荷大社～泉涌寺～今熊野観音寺～三十三間堂～京阪・七条駅



羅漢像



伏見稲荷大社



石峰寺・赤門



「寺社巡りをしてウォーキングを楽しもう」。深草駅から東へ細い路地を進んでいくと石峰寺。若冲の五百羅漢を拝観、門前には梅の花が咲いていた。伏見稲荷大社の参集殿でゆっくりと昼食。朱が鮮やかな千本鳥居をくぐり、奥社から御寺泉涌寺へ抜けて行く。ここは天皇家の菩提所、周りに古い天皇陵が並ぶ。東大路へ出て三十三間堂へ、1001体の千手観音像には圧倒される。



三十三間堂



泉涌寺